

シンポジウム「進化と系譜：ツリー、ネットワーク、視覚言語リテラシー」

趣旨説明—進化と系譜：

ツリー、ネットワーク、視覚言語リテラシー

三中 信宏（農業環境技術研究所／東京大学大学院農学生命科学研究科）

リテラシー（識字）の問題は、一般社会の中でも生じるが、科学の世界でもやはり生じる。進化学者（あるいは他の個別科学の研究者）が、家系や系譜のつながりを表現するために日常的に使っているさまざまな図形言語はどのようなコミュニケーションに使われ、読み手はどのようにそれを受容しているのか、今後、そのような図形言語をさらによく使いこなすためには何を考えればいいのか、などの論点が浮上してくるだろう。もちろん、論議の切り口そのものもいくつかあり得るだろう。たとえば、現在の進化学で当たり前のように用いられている系統樹やネットワークといった図形言語がそのユーザーに伝達している意味内容や背景仮定にはもっと論議すべき論点があるだろう。個別科学の分野で用いられているさまざまな図形言語（文字、記号、絵画、などの視覚化ツール）に関するリテラシーの問題を分野横断的に議論する場を設けたいというのが今回のシンポジウムを企画した動機である。